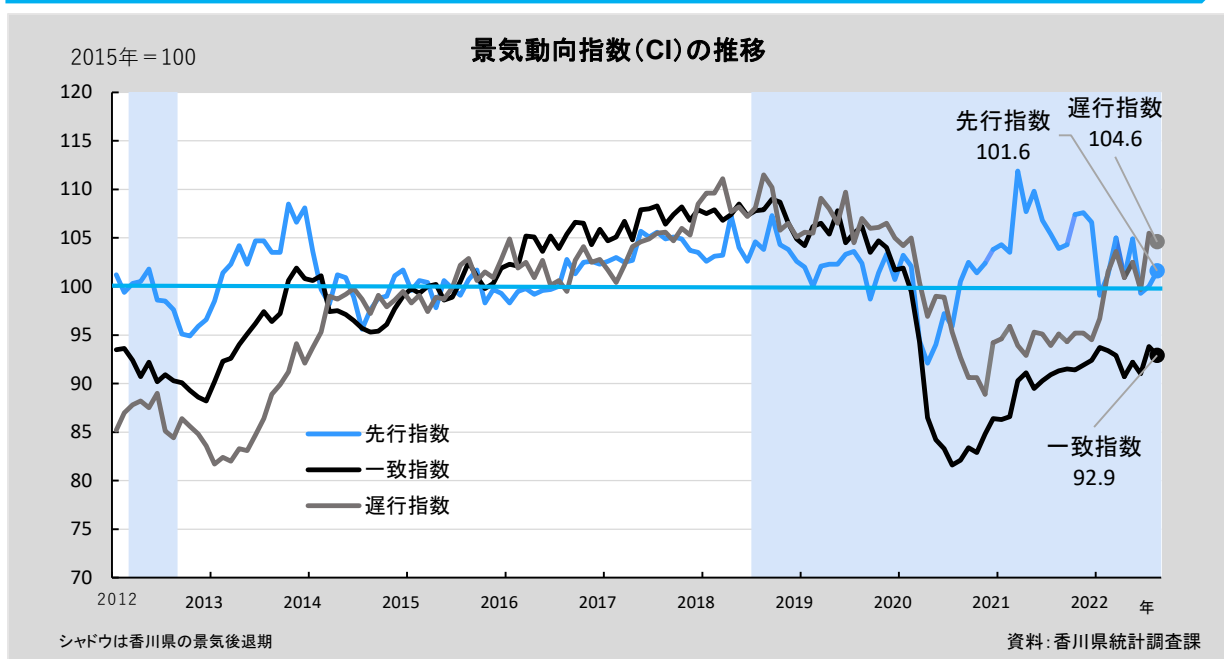


<b>概況</b>	景気は、緩やかに持ち直している。
<b>個人消費</b>	緩やかに持ち直している。
<b>住宅投資</b>	低調に推移している。
<b>公共投資</b>	減少している。
<b>生産活動</b>	緩やかに持ち直している。
<b>雇用情勢</b>	緩やかに持ち直している。
<b>貿易</b>	輸出は減少、輸入は増加している。
<b>観光</b>	持ち直している。

**景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月ぶり下降**



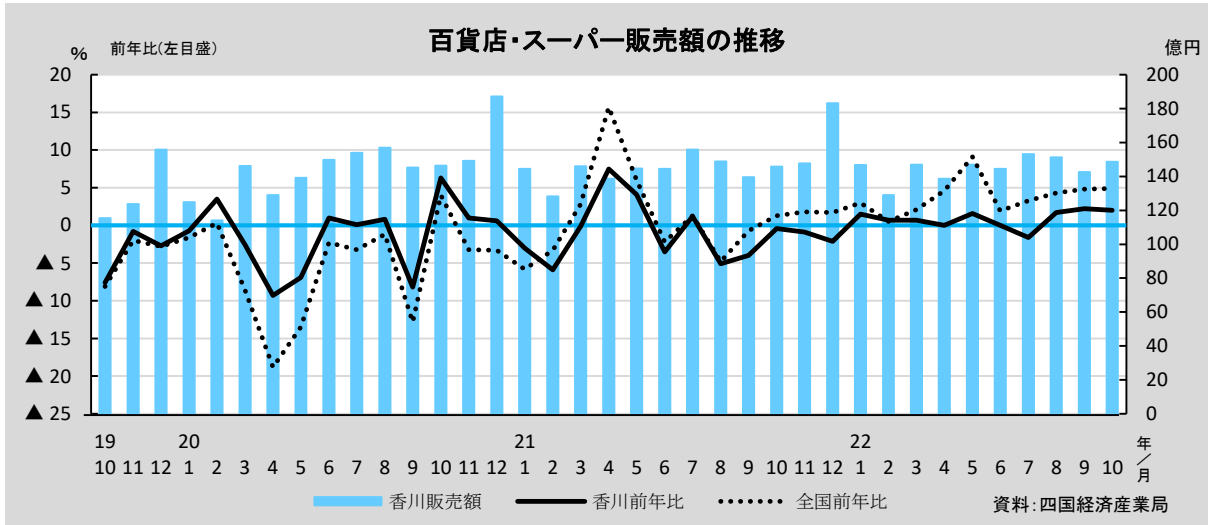
景気の現状をみると、9月のCI一致指数は92.9（前月比▲0.9ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI先行指数は101.6（同+1.6ポイント）と2カ月連続で上昇。CI遅行指数は104.6（同▲0.9ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、建築着工床面積、鉱工業出荷指数、有効求人倍率などが下降に寄与したことにより、前月から0.9ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.74	1 雇用保険受給者実人員	0.25	1 常用雇用指数	0.01
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.12	2 有効求人倍率	▲ 0.17	2 有効求職者数	▲ 0.20
	3 鉱工業在庫率指数	1.45	3 所定外労働時間指数	▲ 0.09	3 消費者物価指数	▲ 0.06
	4 生産財生産指数	0.54	4 鉱工業生産指数	▲ 0.00	4 家計消費支出	▲ 1.05
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.90	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.35	5 鉱工業在庫指数	1.34
	6 金融機関貸出残高	0.17	6 建築着工床面積	▲ 0.60	6 法人事業税調定額	▲ 1.01
	7 消費者態度指数	▲ 0.09	7 百貨店・スーパー既存店販売額	0.06	7 第3次産業活動指数	0.22

●百貨店・スーパー販売額

3カ月連続増加 ↑

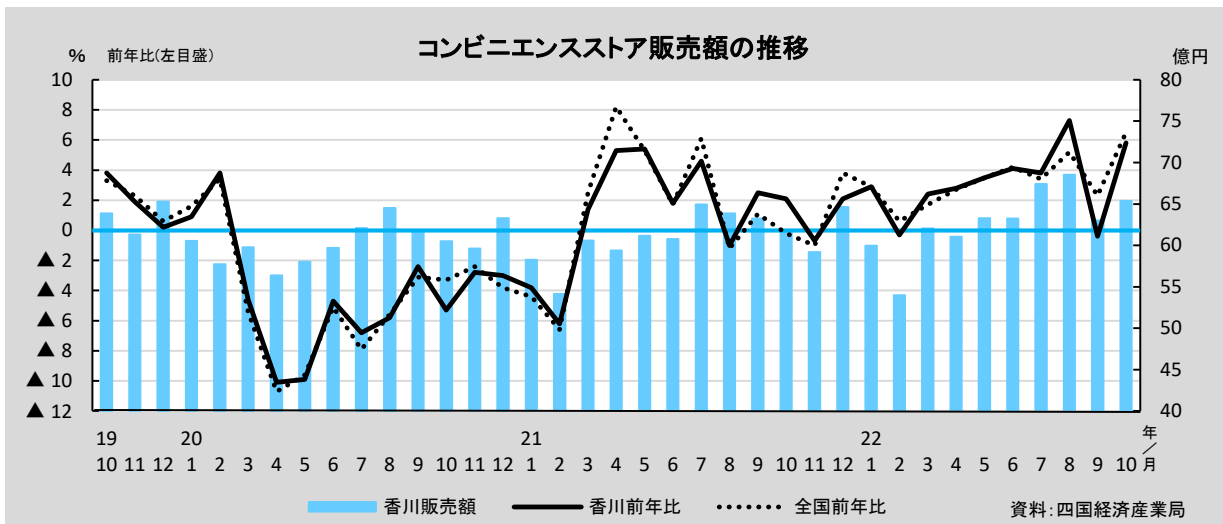


2022/10月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	125,939	62,277	1,087,390	2,504	4,698	26,247	176,994	475	1,486,524
前年同月比(%)	5.3	20.6	1.7	▲18.1	▲10.0	▲3.8	▲2.0	▲4.0	2.0

10月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は148.7億円で、前年同月比+2.0%と3カ月連続で増加した。「飲食料品」は中食・内食需要で+1.7%と堅調に推移、外出機会の増加で「身の回り品」は+20.6%、「衣料品」は+5.3%と好調だった。

●コンビニエンスストア販売額

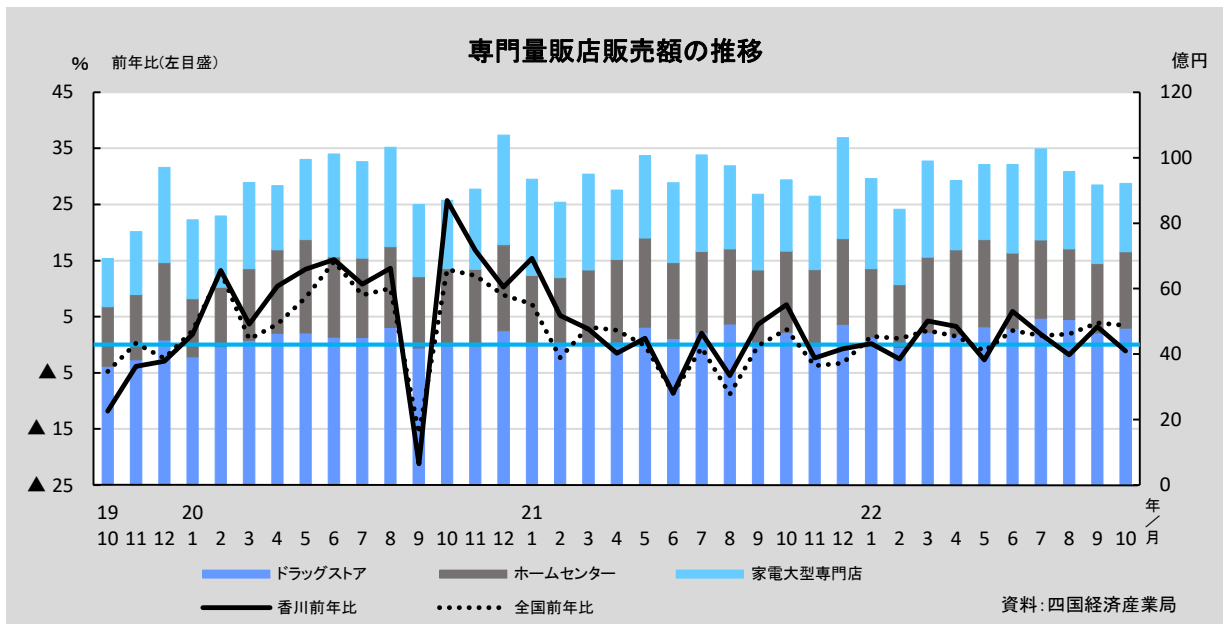
2カ月ぶり増加 ↑



10月のコンビニエンスストア全店(408店)の販売額は65.4億円で、前年同月比+5.8%となった。たばこの値上げの影響が前年に比べて少なかったほか、フライヤー商品、冷凍食品などの動きが良く、2カ月ぶりの増加となった。

## ●専門量販店販売額

2カ月ぶり減少 ↓

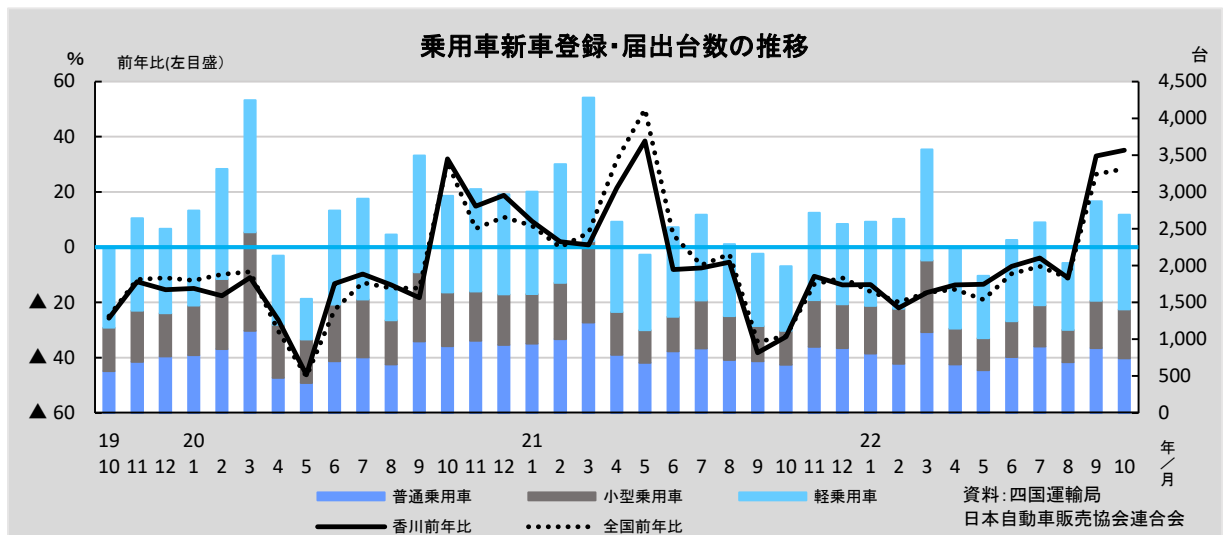


10月の専門量販店全店（209店）の販売額は92.2億円で、前年同月比▲1.1%と2カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、入店客数が減少したほかテレビの動きも悪く、販売額は21.0億円で前年同月比▲3.6%、**ドラッグストア**（134店）は、酒類の値上げの影響が比較的小さく、調剤医薬品が伸びたことなどから、販売額は47.9億円で同+2.7%となった。**ホームセンター**（46店）は、入店客数が減少したほか季節商品の動きが悪く、販売額23.3億円で同▲6.2%となった。

## ●乗用車新車販売台数

2カ月連続増加 ↑



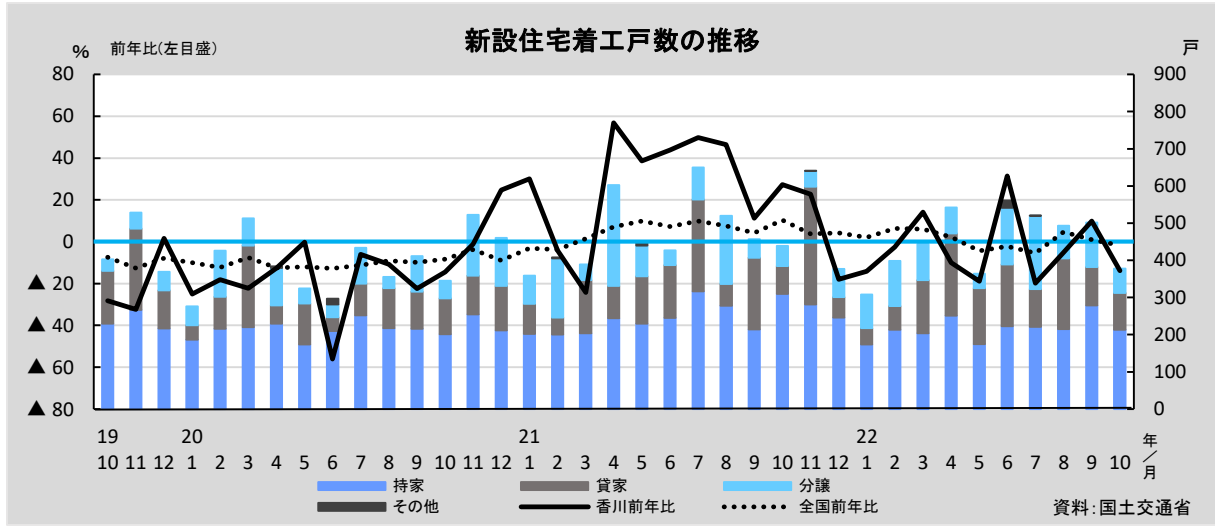
10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,691台で、コロナ禍に伴う部品や半導体不足が顕著だった前年の反動増で、前年同月比+35.1%と2カ月連続で増加した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+13.3%、小型乗用車で同+43.8%、軽乗用車で同+46.8%となった。

住宅投資 低調に推移している

●新設住宅着工

2カ月ぶり減少 ↓

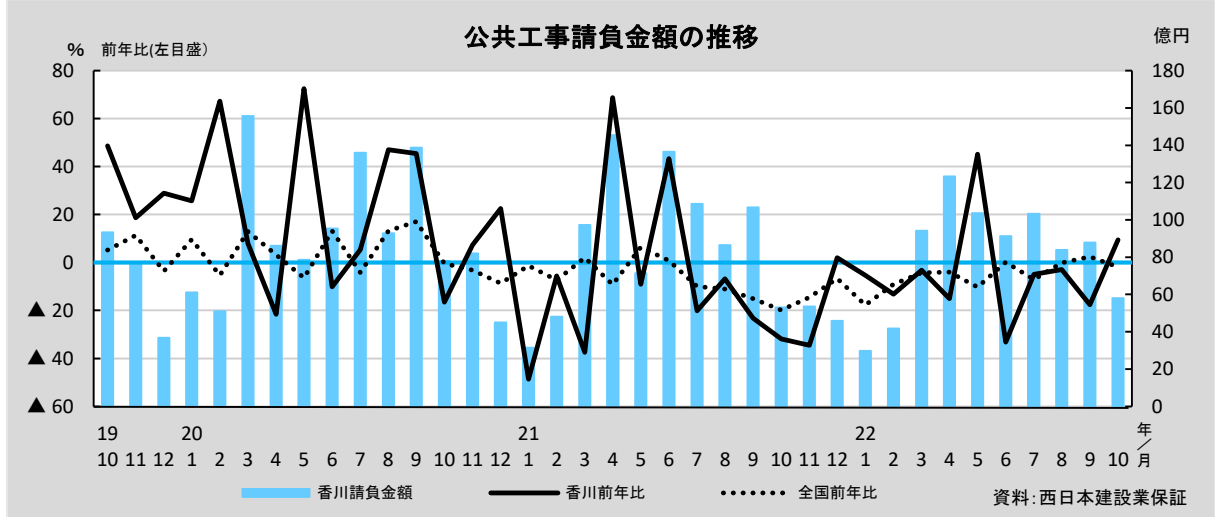


10月の新設住宅着工戸数は378戸で、前年同月比▲13.9%と2カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、持家で前年同月比▲31.3%、貸家で同+32.0%、分譲住宅で同+22.2%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額

5カ月ぶり増加 ↑




10月の公共工事請負金額は58億円で、前年同月比+9.5%と5カ月ぶりに増加した。発注者別にみると、国・独立行政法人等で前年同月比+136.1%、県で同▲14.0%、市町で同+0.8%となった。

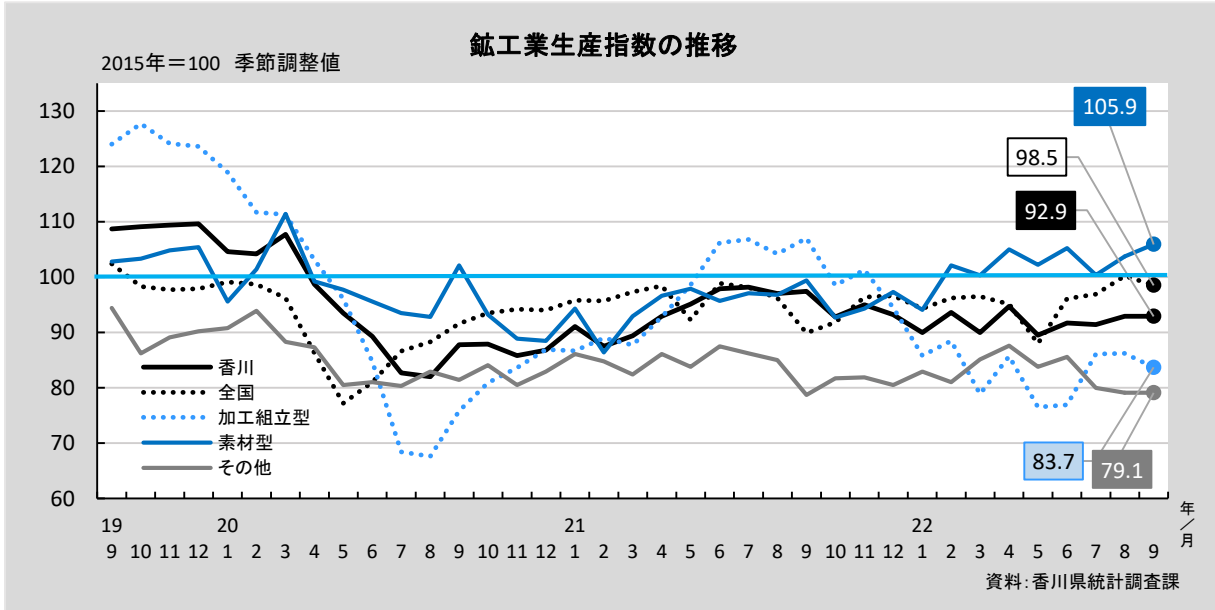
2022.4月～10月の累計では前年同期比8.0%減少している。

生産活動

緩やかに持ち直している

● 鉱工業生産指数

横ばいで推移 



9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は92.9（前月92.9）となり、横ばいで推移した。


業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+10.6%、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同+12.1%と上昇した。

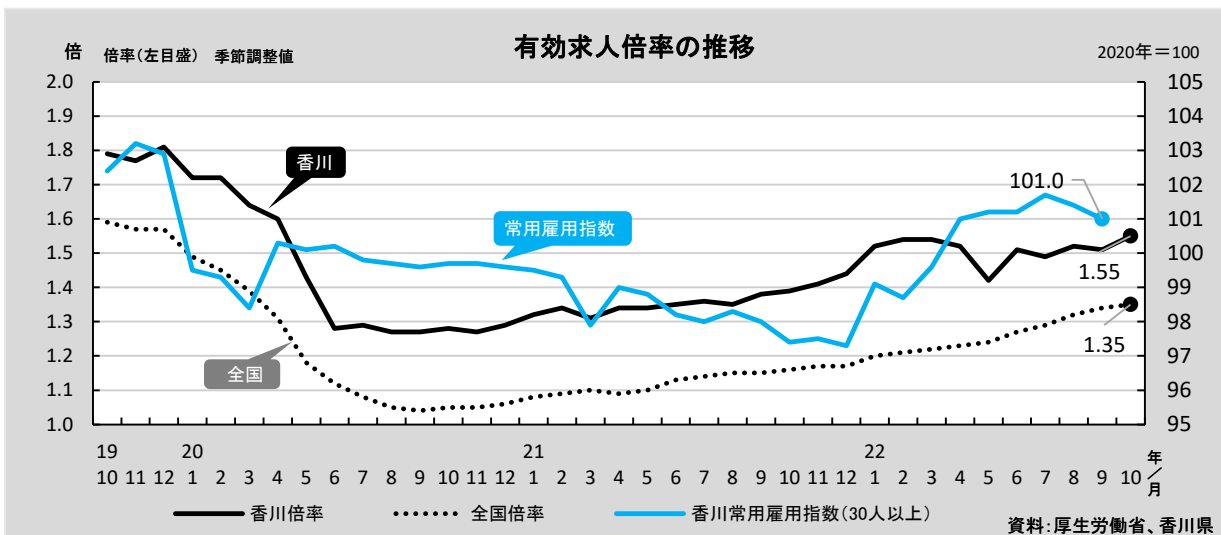
一方、加工組立型の電気機械工業（開閉制御装置など）は同▲15.1%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2カ月ぶり上昇 



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.55倍（全国14位）と前月より0.04ポイント上昇した。

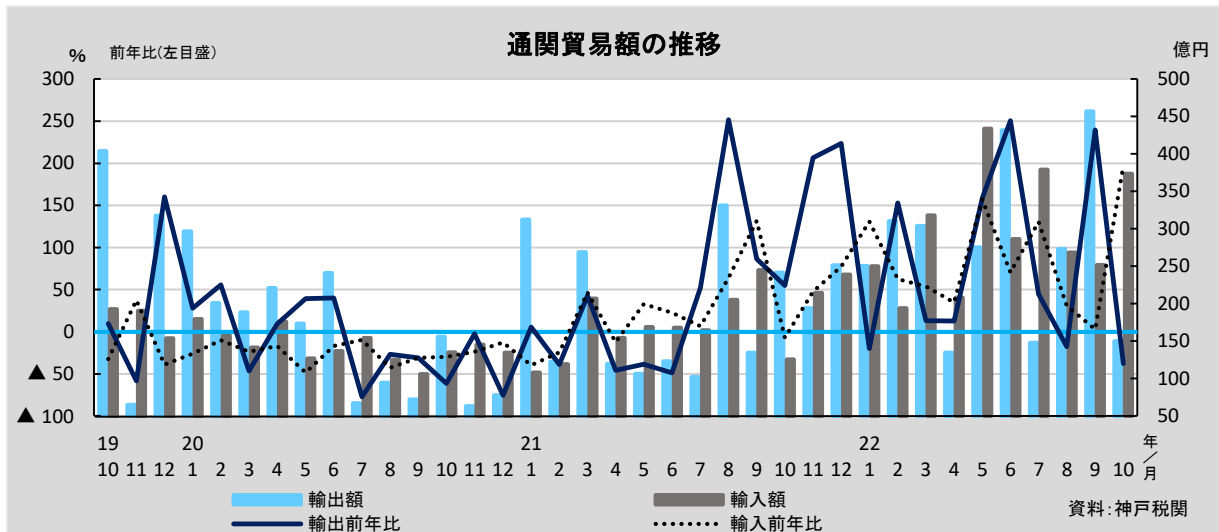
新規求人（原数値：前年同月比）は、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、卸売業・小売業、宿泊・飲食サービス業等で増加し、全体で+8.2%と19カ月連続で増加した。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.0となり、前年同月比は7カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.15
事務的職業	0.69
販売の職業	2.78
サービスの職業	3.52
生産工程の職業	2.54
輸送・機械運転の職業	2.24
建設・採掘の職業	6.02
運搬・清掃・包装等の職業	1.20

## 貿易

輸出は減少、輸入は増加している



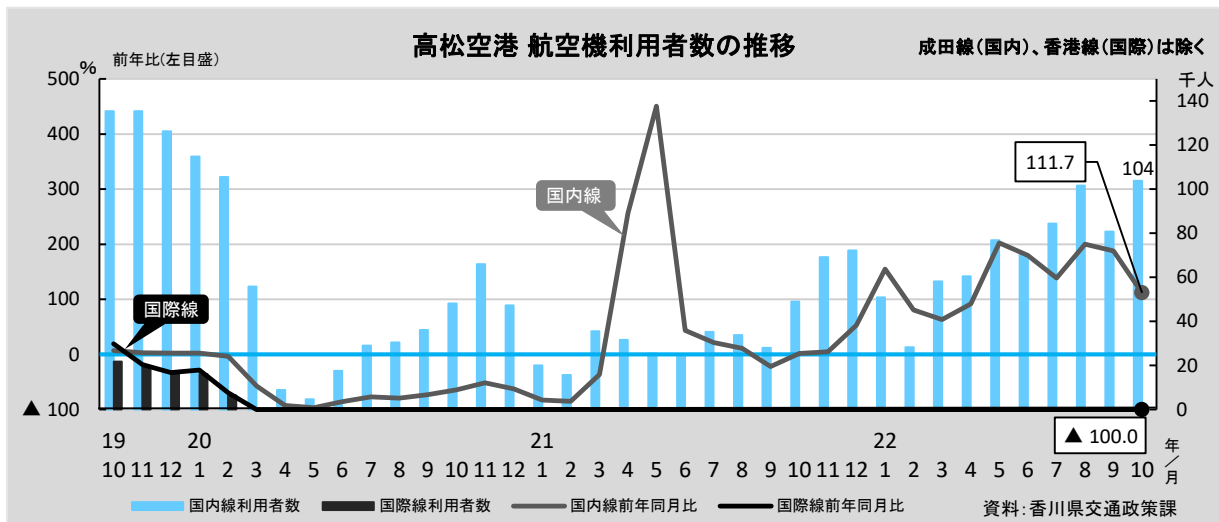
10月の輸出額は前年同月比▲37.9%の149.8億円、輸入額は同+197.2%の373.6億円となり、差し引き223.8億円の入超となっている。

輸出は、前年129億円だった貨物船輸出額が全減となった。輸入は、石炭輸入額が前年同月比2.9倍の150億円となった。

## 交通

国内線は13カ月連続増加、国際線は32カ月連続全面運休

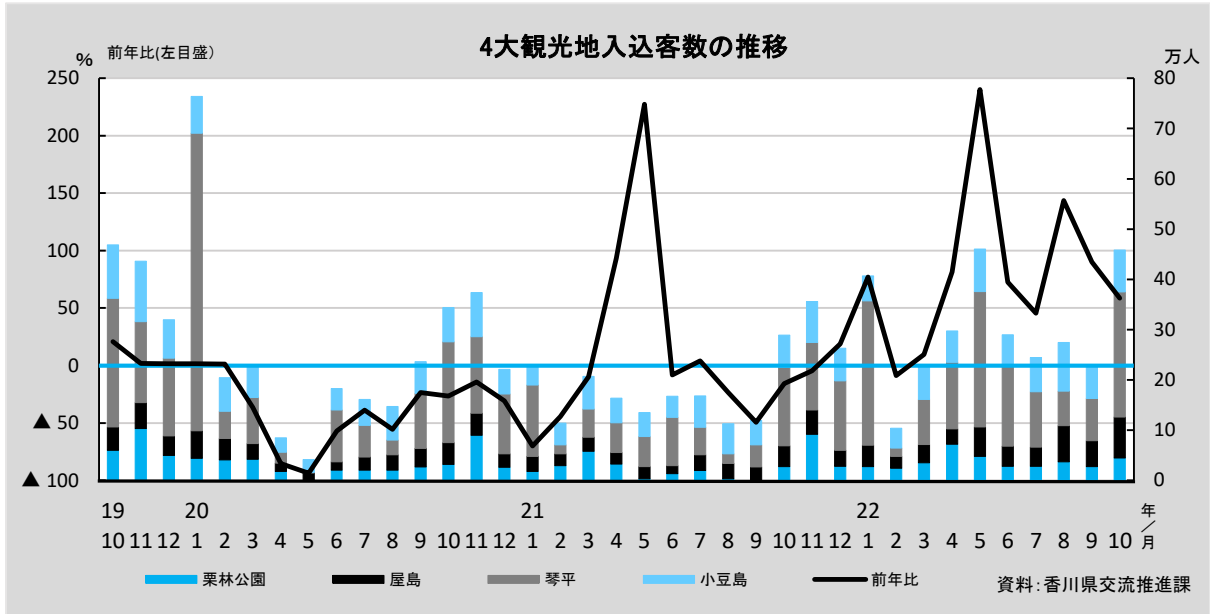
### ●高松空港旅客輸送実績



10月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が103,741人（前年同月比+111.7%）となり、13カ月連続で増加した。羽田線は98,536人（同+105.8%）、那覇線は5,205人（同+360.2%）となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲23.4%となった。

国際線（ソウル・上海・台北線）は2020年3月から32カ月連続で全面運休が続いているが、新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、11月からソウル線の運航を再開し、2023年1月からは台北線の運航再開予定。

●主要観光地入込客数

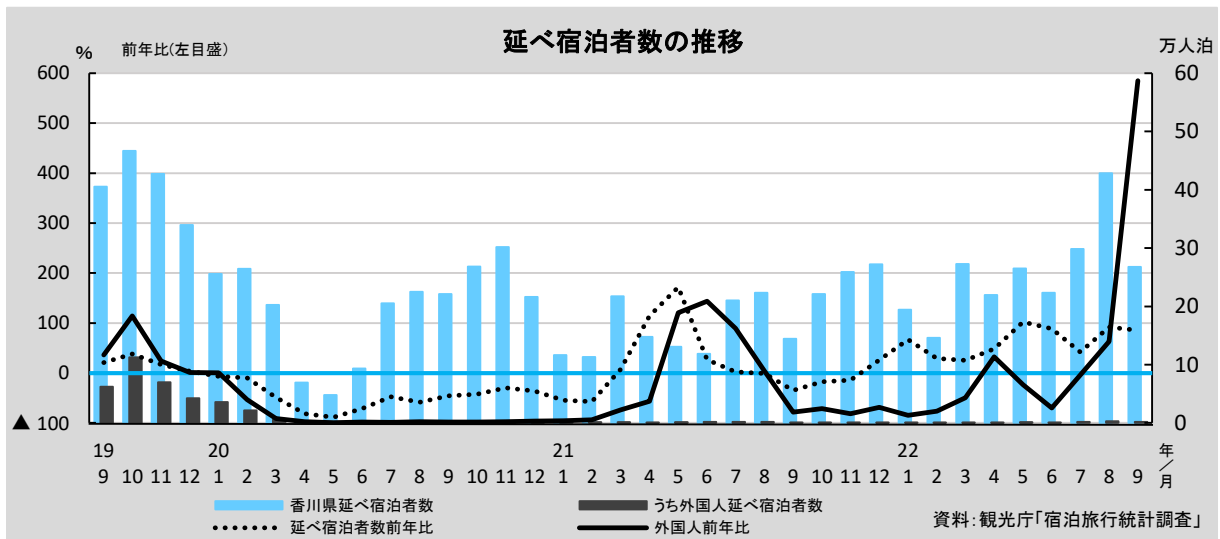


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
10月(人)	前年同月比	44,649	62.7%	81,569	98.3%	249,000	59.6%	83,419	28.9%	458,637	58.5%
1~10月累計(人)		371,647	81.0%	473,954	73.0%	1,469,000	108.4%	674,711	29.1%	2,989,312	75.2%

10月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+58.5%と8カ月連続で増加した。10月から始まった全国旅行支援や瀬戸内国際芸術祭秋会期の効果もあり、栗林公園は前年同月比+62.7%、屋島は同+98.3%、琴平も同+59.6%と高い伸びとなった。

1~10月の累計では前年比+75.2%となった。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数は267,560人で、前年同月比+85.4%と10カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲34.0%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は1,850人となり、前年同月比+585.2%と2カ月連続で増加した。2019年同月比では▲97.0%となった。